

会 議 録

会議の名称	第9回小金井市公共施設在り方検討委員会
事務局	企画財政部企画政策課
開催日時	令和8年3月5日（木）9時30分から11時30分まで
開催場所	東小金井駅開設記念会館（マロンホール）1階ギャラリー
出席者	委員長 市古 太郎 副委員長 讃岐 亮 委員 土山 希美枝 梅根 拓也 中谷 行男 村井 芳久 小西 由華 鈴木 浩司 谷越 瑞希
欠席者	委員 増田 亮
事務局	庁舎建設等担当部長 高橋 啓之 公共施設マネジメント推進担当課長 郷古 陸 企画政策課企画政策係主任 山下 真優
傍聴の可否	○可 ・ 一部不可 ・ 不可
傍聴者数	1人
会議次第	1 開会 2 報告 小金井市公共施設在り方・再編方針（案）に対する意見募集について 3 議事 小金井市公共施設在り方・再編方針（案）について 4 その他 小金井市公共施設在り方・再編方針策定スケジュールについて 5 閉会
会議結果	別紙のとおり
発言内容・ 発言者名 （主な発言 要旨等）	別紙のとおり

提出資料	資料 1 小金井市公共施設在り方・再編方針（案）に対する意見 資料 2 小金井市公共施設在り方・再編方針（案）に係る市民懇談 会 開催報告 資料 3 小金井市公共施設在り方・再編方針（案） 参考資料 公共施設在り方検討委員会の検討経過
その他	

市古委員長

本日は、お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。
本検討委員会は、本日が最終回となります。どうぞよろしくお願
い
します。

本日、増田委員から欠席、梅根委員から遅れて出席されるとの連
絡が入っておりますのでご報告いたします。

定足数につきましては、小金井市公共施設在り方検討委員会設置
要綱第6条にて、委員の2分の1以上の出席を必要としております。
現在10人中8人ご出席をいただいておりますので、本会議は成立
していることをご報告申し上げます。

それでは、まず配布資料について事務局より説明をお願いいたし
ます。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長 それでは、配布資料につきまして説明さ
せていただきます。本日配布しました資料は、「資料1 小金井市公
共施設在り方・再編方針（案）に対する意見」「資料2 小金井市公
共施設在り方・再編方針（案）に係る市民懇談会 開催報告」「資料
3 小金井市公共施設在り方・再編方針（案）」、それから参考資料
として「公共施設在り方検討委員会の検討経過」を配布しておりま
す。資料の不足等ありませんか。

（委員確認）

郷古公共施設マネジメント推進担当課長 大丈夫でしょうか。ありがとうございます
です。報告及び議事で使用する資料につきましては、後ほど説明させ
ていただければと思います。参考資料、「公共施設在り方検討委員会
の検討経過」につきましては、これまでの検討委員会の検討経過を
前回同様まとめておりますので、詳細は資料をご覧ください。

配布資料の説明については以上です。

市古委員長

ありがとうございました。報告及び議事に関する資料については、
議事において取扱いとさせていただきます。参考資料については、
前回同様、これまでの検討委員会の検討経過としてご活用ください。

それでは、報告として「小金井市公共施設在り方・再編方針（案）に対する意見募集について」、事務局の説明をお願いいたします。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長 それでは、「小金井市公共施設在り方・再編方針（案）に対する意見募集について」説明をさせていただきます。

資料1「小金井市公共施設在り方・再編方針（案）に対する意見」をご覧ください。令和8年1月23日から2月24日にかけて、小金井市公共施設在り方・再編方針（案）のパブリックコメントを実施しました。意見につきましては、7人の方から22件のご意見をいただきました。意見の内容等、詳細については資料をご覧ください。

続きまして、「資料2 小金井市公共施設在り方・再編方針（案）に係る市民懇談会 開催報告」をご覧ください。パブリックコメントの実施に合わせて、「小金井市公共施設在り方・再編方針（案）」に係る市民懇談会を開催しましたので報告させていただきます。

第1回を令和8年2月1日に市民会館萌え木ホール、第2回を2月3日に東小金井駅開設記念会館（マロンホール）にて開催することを予定しておりましたが、第2回につきましては、衆議院議員選挙の関係で中止となりましたため、1回の開催となりました。

市民会館萌え木ホールで開催しました市民懇談会には3名の方に参加していただきました。当日は、事務局から本方針（案）の概要を説明したのち、参加者との意見・懇談として本方針（案）に対するご意見やこれからの公共施設の在り方について対話形式で意見交換を行いました。

意見・懇談の中では、「民間施設の活用について」、「地域コミュニティエリアにおける公共施設再編について」など、方針（案）に関するご意見をいただくと共に、方針（案）の内容に限らず、これからの公共施設の在り方について幅広くご意見をいただくことができました。詳細は資料をご覧ください。

説明は以上です。

市古委員長 事務局からの説明は終わりました。「小金井市公共施設在り方・再編方針(案)に対する意見募集について」報告事項ではありますが、ご意見、ご質問等あればお願いいたします。

鈴木委員 資料2に「市職員からの回答」とありますが、これは市の回答だと思えばいいですかね。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長 はい。おっしゃるとおりです。

鈴木委員 分かりました。それから、この資料1については、先ほど市の回答が決まっていなかったということでした。回答につきましては、我々検討委員会委員には検討内容を伝えずに完成形ができてしまうのでしょうか。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長 本日の検討委員会でのご意見等を踏まえまして、庁内で回答の取りまとめを行います。皆様には参考として後日回答を情報提供させていただければと考えております。

讃岐副委員長 質問したいことは2点あります。

 まず1点目は、資料1と2のそれぞれの意見数及び参加者数において、事前に想定されているものがあつたら、それとの差はどうでしたかということです。その差がある場合、それをどのように次の機会への教訓とされるか教えていただきたいです。

 2点目は、パブリックコメントの意見の中で、懇談会用の配布資料を作成し、配って、それが比較的好意的に受け取られているようですが、その資料はどのようなものだったのでしょうか。今見せてくれということは、なかなか難しいかもしれないですけども、どのような資料であつたのか教えてください。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長 それでは質問の1つ目、事前の想定に関してです。まず、パブリックコメントの想定というのはなかなか難しいところではございますが、今回、多様な意見をいただけたこと

はありがたいことと考えております。

それから市民懇談会についてです。こちらは、数十人の方が参加していただけたらと想定しておりました。懇談会という形で開催させていただいたのは、市から説明するだけではなく、参加者の皆様から様々な意見を伺えればという思いがありましたため、ご参加いただける方の人数が多ければよかったと思っております。ただ、実際来ていただいた方が3名いらっしゃいましたが、少人数ではありますが、じっくりとお話をすることができました。1時間半程お話しすることができ、懇談会形式で実施したことについては、説明会形式よりも、より深くお話をすることができたというように認識をし、評価をしております。

懇談会の中でお話があったのですが、このような会に参加をしてくれる方以外の方をどう巻き込んでいくかというところで、市民ワークショップでもご指摘いただいておりますが、継続して市民参加をできるような仕組みや意見交換ができる場というものを作っていく必要があるのだと思います。今回方針を作っていますが、これがまだゴールではなく、ここからがスタートだと思います。

それから、市民懇談会の配布資料につきましては、市ホームページに掲載させていただいております。

また、市議会において説明資料について動画を作成して周知したほうがより分かりやすいのではないかというご指摘もいただきまして、プレゼンテーションソフトを活用して、動画作成を行い、その動画を公開して、周知を図っているところです。

土山委員

前は欠席となりまして失礼いたしました。資料ありがとうございます。とりわけ資料1は、実際の市民の意見は大事ななと思いながら拝見しておりました。

やはり全体の方向性としてはいいのだけれども、それを踏まえて、この施設はどうするのかという意見は当然出てくると思います。多くの方が書かれていますが、それぞれの施設については、これから方針をベースに意見交換をして合意形成を図っていくということだと思います。市側からすると発信はしているのだけれど、聞いた

い側からすると届いていないという問題はどうしても出てきてしまいます。なかなか難しいと思うのですが、こうした大きな方針を策定したことをきっかけに、このあと個別の議論をするときにどうするかという具体的な議論に備えられるように、それぞれ担当部署が分かれていますので、庁内での見晴らしのよさでしたり、庁内でも可視化していくということが大事です。総論と各論との間をどう見えるようにつなぐかということが、どうしても残ってしまうと思うところです。

なお、部分的に行き場がなくてここに来たのだなといったご意見もあるのですが、どのご意見もちゃんと理屈がとおっていて、しっかり考えられていて、問題意識をもってこの投稿をされたのだなと理解しております。

市古委員長

1点、冒頭で伝えそびれまして、すでに本日の開催に先立って、事務局からお知らせがありました。本日の最後にございますその他という項目にて各委員からこの方針について、また検討委員会に参加されての所感、感想、期待についてご発言いただければと思っております。

それでは、報告につきましてはよろしいでしょうか。

本件については以上で終了いたします。

次に、議事として「小金井市公共施設在り方・再編方針（案）」について、事務局より説明をお願いいたします。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長 それでは、「小金井市公共施設在り方・再編方針（案）」について説明をさせていただきます。

資料3「小金井市公共施設在り方・再編方針（案）」をご覧ください。パブリックコメント時に委員の皆様に参加送付させていただきました内容から一部追記等を行っておりますので説明させていただきます。

資料の26ページをご覧ください。これからの公共施設が目指すビジョン（イメージ）になりますが、パブリックコメント時点では文章のみでしたが、検討委員会からもご意見をいただいております。

たので、午前から夜までの4シーンのイラストをイメージがつきやすいように入れさせていただいております。

その他、軽微な文言の修正等を行っておりますが、内容としましては、パブリックコメント時の内容とほぼ同じ内容と考えていただければと思います。本日は、検討委員会の最終回となりますので、パブリックコメントの意見も踏まえまして、方針（案）についてご意見をいただければと考えております。

説明は以上です。

市古委員長

ありがとうございます。資料3について事務局からの説明は終わりました。委員の皆さまからご意見・ご質問等いただければと思いますので、よろしくをお願いします。

鈴木委員

前は欠席して、会議録は拝見させていただきました。その中で、新庁舎・（仮称）新福社会館周辺の三つ目の柱のところは、もう少し書いた方が良くはないかとの議論もありました。前の時はもう一言、現在はまだ不確定要素がありますというような文言があったと思うのですが、そこは前回と同じということによろしいでしょうか。また、福社会館については、現状については全く触れないのかどうかを確認させてください。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長

新庁舎・（仮称）新福社会館につきましては、2回入札が中止になっているという状況はこれまで話したとおりです。今回市議会で市長の施政方針をお出ししておりますが、市の方針としては、現行の設計で、再度3回目の入札をかけるというように方向性を示しております。そのため、文言的にはこれまでとほぼ変わらないもので記載をしているというお答えになります。

鈴木委員

前々回までは事業進捗を踏まえまして表現を調整しますという表現があったかと思ひまして、私はてっきりそれが最後まで記載されるのかと思っていました。ただ、今回のパブリックコメントの中にもありましたとおり、市民目線ではこの事業というのは皆さん不安

に思っています。そのことについて全く触れないということは、私個人的には疑問を覚えるのですが、やはりその表現は変わらないということでしょうか。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長　　今申し上げたとおり、市としての方向性は決めているところで、これまでどおりと方向性は変わっておりませんので、あえてここに今後何か変わるような文言を入れることは、なじまないという考えです。

鈴木委員　　そこは市民目線とは、ずれているかなということだけ述べさせていただきます。

市古委員長　　今の鈴木委員のご発言の28ページの辺りはこの方針の1つ大事な論点出しとなるように思います。地域コミュニティエリアと、2つの駅と新庁舎等を拠点とした交流・創造の拠点という空間スケールを使い分けてということです。都市計画マスタープラン等の他のプランの流れも踏まえていますが、今のお話の関係でこの②の交流・創造の拠点が、28ページでいきなり出てきてしまうのだとすると、空間的な小金井市全体としての大きな拠点性を持つという、交流・創造の拠点と地域コミュニティエリアにつきましては、確かに非常に読んで理解していくことは大変かもしれないですね。

中谷委員　　今更ですがこのイラストを見ていて気づいたのですが、ここに集まる方というのは多様な方々だろうということは当たり前のように考えています。よく見るとお子さんらしい人もいらっしゃると思うのですが、例えば、明らかにビジュアル的に見たときに障がい者の方がいらっしゃるとか、もっと高齢の方がいらっしゃるとか、けがをしている人もいらっしゃるとか、なんでもいいのですが、地域にはさまざまな方がいらっしゃるの、こういう目に見えるところで表さないと、多様な人が集まっていないのではないかと思われる可能性があります。そういう意識が欠けているのではないかと思い、イラストの修正をお願いしたいというのが一つの意

村井委員

意見が二つあります。一つは、資料1の上のご意見の中にありました、要はソフト面の話ですが、人が集まってコミュニケーションが活発化するにはそういったファシリテーターなどが必要だというコメントがあったと思います。今回のこの再編方針は箱というかインフラ側に特化して書かれているので、その箱をうまく活用する人たちをどのようにしていくか。インフラができた、そこにきちんとトレーニングを受けたファシリテーターたちがいる。そういった形のものが必要なのではないかなということが一つ。

それから、もう少し大きな枠の話なのですが、資料1に計画にはこう書いてあったのにそれが反故されて、違うものになっていたというコメントがありました。プランを作る体制はあるのですが、できたらD○やチェックの部分は、小金井市としてどうやってそれをチェックしていきますよという、チェック機能がありますよと言えたらいいのかなと思います。

我々も時間をかけて、せっかくここまで計画を立てたのに、これがどのように実施されていって、どのようなチェックが働いて、もう1回次にプランするときにはここが課題だったということで、この課題を生かして、次のプランを立てられる形になっていかないと、結局ゼロベースでまたプランするとなると、市の方もがっかりですし、市民も同様になるのかなと思います。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長 まず1点目、この方針は、建物に対する計画になりますので、おっしゃる通りソフト面のところが薄いというのはご指摘のとおりであり、そこはあえて分けているところがございます。ソフト面につきましては、施設それぞれの特徴がありますので、どこまで公共施設マネジメント推進担当において方向性を決めていくというところはなかなか難しいと思っております。ただ、市民ワークショップでも、つなげていくとかということであれば、そういったファシリテーターというか、つなぐ人が必要だという意見はありましたし、庁内でもそういった意見が出ております。ご意見は、確かにそうだと思います。ただ、今は全体方針を作っている

ところになりますので、すべての施設においてファシリテーターを置くという考えをなかなか持ちづらいという中では、一部の施設については置いた方が良いのかもしれませんが、全体として施設にファシリテーターを置くのだという方針を持つことは難しいと思っております。この方針の中にも書いてありますが、施設の役割を再定義するのだという中で、ソフト面も含め考えていく中でやっていきたいというところが1点です。

市民ワークショップの中でもつながりたくないという人もいるのだというご意見がある中で、どのようにバランスを取っていくかということも1つの課題かと認識しておりますので、その辺りは実際の個別の検討の中で検討していきたいということが1点目の答えとなります。

それから、2点目の方針のチェック体制についてですが、前回の検討委員会でお答えしたかもしれませんが、毎年、施策評価や事務事業評価を行う行政評価を実施しており、今回、方針にも書かせていただきましたが、公共施設等総合管理計画策定推進本部という庁内組織において、進行管理を行っていきます。

そして、この策定推進本部の会議録等については、市のホームページで公表しております。そういったものを使いながらチェック機能や進行管理を行っていき、方針を作成しても、なかなか進展がなく、また同じような方針を作ることにならないよう、日々の取組を進行管理し、課題は何か、どうすれば進んでいくかということを庁内で考えていきたいというような思いで、この方針に落とし込んでいるということをお答えさせていただきます。

村井委員

ありがとうございます。分かりました。

では、この46ページにある、公共施設等総合計画策定推進本部が計画策定だけではなく、その実施状況に関してもレビューのコメントができるということですね。

そこで、箱ができ、その箱できちんと市民サービスを充足させるための組織改革なども推進本部がある程度ハンドリングされるイメージでしょうか。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長　　組織改革はまた担当部署が変わってしま
いますが、この推進本部のメンバーは、市長、副市長、教育長、部
長職で構成されておりますので、公共施設の再編において組織改正
の必要性が生じれば、連動してくるものと思います。

村井委員　　このご意見を見ていると結構プランはいいという書き込みがある
ので、あとはこれをどうきちんと実施して形にしていくかという
ところが落とし込めていけば、市民の期待も大きく膨らみ、協力的に
もなるかと思っておりますので、よろしく申し上げます。

市古委員長　　ありがとうございます。今の村井委員のご意見は両方ともとても
大事なご指摘かと思っております。

1点目は、ソフトというときに、その公共施設が果たすべき機能、
どういったニーズがあるのか、どのように過ごしたいのか、どのよ
うに使いたいのかという意味でのソフトと、ファシリテーターとい
う大事なキーワードをいただきましたが、上手く居心地のいいサー
ビスを提供するために、経費も含めてどのように運営していくのか
といった機能と運営を含めたソフト面についてです。

前者の機能に関しては、25ページの6つのビジョンでキーワー
ドを頭出ししたわけですが、村井委員もおっしゃっていただきまし
たように、パブリックコメントの12番のところも含め、どのよう
にいい形でコストパフォーマンスよく運営していくのかというこ
とに関しては、なかなかこの委員会だけでは認知できなかったとこ
ろかと思っております。やや49ページ辺りの民間活力に期待せざるをえ
ないと個人的には感じていたところです。

小西委員　　ビジョンの実効性という話に関連してですが、それぞれの施設、
例えば図書館でしたら図書館協議会で、毎年どういうことをやって
いくかを策定していくということで、そのような決まった協議体
がある中で、このビジョンは小金井市全体の中で、これから策定した
ものとして、できるところはひとつずつやっていくのだというところ

ろを、落とし込んでいただきたいと思います。

結局のところは、それぞれの会議体での考え方があると思うので、あまり書きたくないこともあるかもしれないですが、市としてはこのような方針でやっていくのだというビジョン。その3番目の柔軟に、フレキシブルに使えるようにというのは、少し読み直すだけでも実現していくこともあると思いますので、ある程度トップダウンで全庁的に対応できるように考えていただければと思います。

市古委員長

ありがとうございます。僕からも1点だけ。

パブリックコメント項目5番にも児童・生徒数について、児童の推移、特に学童保育に関しての質問ではあったのですが、この資料1の最後のところに、本市においても学童保育の利用児童数は増加傾向にあるということで、小学校から私立中学校へ行く実態もあるわけですが、公立中学校が充実してくることで、将来的にはいわゆる義務教育学校や中高一貫なども含めて可能性の一つとして出てくるかと思われます。この辺りの需要、実態数もいろいろな形で変化してくるという気はしています。

小学校の児童数は、社会の変動はありますが大体見込めるわけで、中学校やパブリックコメントで出ている学童保育、それから保育所に関するニーズなどに関して、事務局よりご見解をいただければというように感じていました。

施設のサービス水準が変われば、またいろいろ変化してくるものだという前向きにとらえるか、少し抑制的にとらえるかというニュアンスに関してということなのですが、児童・生徒数の推移、実態としては、公表されている統計値について、もしお答えできることがあればお願いいたします。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長

ご質問の回答とずれてしまったら申し訳ないのですが、児童・生徒数の推移は人口統計から見ており、基本的にこのような形で市立小中学校の児童・生徒の推移は見込んでいくという認識です。

一方で、パブリックコメントの意見でもありましたが、学童保育

所は現在大規模化をしているという課題はありますので、児童・生徒数の数は減るとは思いますけど、放課後の居場所の充実というところは、ニーズが上がっているというような認識です。

谷越委員

データもたくさん集結して綺麗にまとまっている方針だと思うので、ここからの48ページのステップ5の段階的な検討と柔軟な見直しのところで、今後、スピード感が重要になってくると思います。そのため、是非AIで資料やデータを読み込ませて検討をしていく等、まずスピード感を大事にしていただけると良いのではないかと思います。

他の市ももちろんAIを使っていると思いますので、それでいうと遅れをとるといってもないと思います。難しいと思うのですが、是非スピード感を持ち、効率よく進めていただけることを期待しています。

市古委員長

ありがとうございます。多分AIに「小金井市公共施設在り方・再編方針を教えてください。」という結構出てきますよね。実際は相当な物が出てくるというのは、現実ではあります。

谷越委員

AIは確実ではなく誤っていることがあるので、そこは見識者が判断するべきですが、いっぱい良い意見は出てくるので、活用して欲しいという期待です。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長

現状だけお伝えとなりますが、市としても、今DXを進めており、我々も一部AIを使って業務を進めています。

私も使いながら思いますけれど、AIは誤った回答をしてくるともあるというのはそのとおりだと思っています。ただ、たたき台の範疇といったものは即時作ってくれるので、その後自分が理解した知識を基に正しく修正していくと、作業効率はすごく上がると業務をしながら感じております。

市古委員長

AIに頼り、それを下敷きにするとオリジナリティな部分を狭めてしまうことがあり悩ましいのですが、それを使うなどとは言えない時代ですね。

谷越委員

学校でもAIに聞けば良いのではとなり、質問はなくなっていくのかと思います。少し脱線しますが、小学校では宿題の必要性がなくなっていくなどあり、もしかしたらAIが関わってくる覇権はあるかもしれないので、そういった動向を見ていただきつつ、進めていただければと思います。

市古委員長

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

委員の皆さま、ご意見等ありがとうございました。

それでは、事前に連絡させていただいていたとおり、今回は本検討委員会の最終回となりますので、委員の皆さま一人ひとりに方針（案）へのご意見や検討委員会への感想をお聞かせください。

讃岐副委員長

では2点ほど、この方針（案）と委員会に対する、特に今日のディスカッションへの私の感想を述べたいと思います。

1つは、まず方針（案）がかなり小金井市ならではのものになりつつあるという感触を得ていることです。かなり初期の頃から、つながりの場と言いつつ、つながらないとか、1人の居場所を大切にするというようなことも、ビジョンの議論の中でかなりあったと思います。得てして、このつながりとか交流の場というように書く、そのビジョン①については、どの自治体でもこういったことを掲げます。すごく理想的で美しい言葉なので、誰もが賛成しますが、結果としてあまり施設が使われなかったり、あまり寄り付かれないものができたりすることが現実としてありましたので、それ以外にも、やはり、ビジョン②として居場所となる場というところも、説明の中に一人ひとりを大切にするのだという思いが込められたのは、すごく象徴的だなと思っています。ここまでの多数の自治体の公共施設のビジョンに対するアンチテーゼとは言わないですけども、そういった意味で小金井市ならではのものができていると感じまし

た。

一方で、このような交流・つながりの場ということと、一人ひとりも大事にしますという、二面をきちんと丁寧に議論していることが、もしかしたら小金井市の公共施設の量を増やしている可能性もあって、そこは今後の進め方のところで、きちんと量的にはコントロールしなければいけないという総論の部分は、忘れずに進めていただきたいなというように思いました。

かつ、もう少し踏み込んで言えば、量的な配置というよりは先ほど村井委員からもご指摘がありました、「ファシリテーション」という言葉、あるいは委員長から「運営」という言葉がありました。今後、おそらく施設は当然構えていかなければいけないと思うのですが、その議論の重点が単純にその施設の整備だけではなく、運営というところに重点が置かれるべきなのではないかという示唆が得られたのが、今日の最終回のディスカッションの大きな成果ではないかというように思っています。これが小金井市ならではのポイントに対する感想です。

もう1つ、今日のディスカッションで、ハイライトだと個人的に思っていたのは、私も意見しようと思っていたのですけれども、イラストの描かれ方です。このイラストは、思いの伝え方、あるいは議論の土台の作り方というところに関連するかと思います。先ほど中谷委員や小西委員からも似たような絵であるとか、多様性という点でそれがきちんと書かれているのかもしれないけれど、分かりづらいうようなご指摘があったことは、やはり真摯に受けとめるべきだと思います。

つながらなくてもいい場所と言いつつ、つながらなくてもいい人がどこにいるのか僕も最初見たとき分かりませんでした。多分、午後の左手前にいる女性らしき人物のことを指しているのでしょうけれども、1人でいる人はそのぐらいしかなく、ビジョンイメージと掲げているテーマに対応するものがどこなのかということが、もう少し伝わる方がいいかと思うところもありました。何が言いたいかというと、このようなビジュアルを用意してあげると、公共施設ってこうあったらいいよねというディスカッションが複数出てき

ますし、それが盛り上がりがちになる。例えば、今回ディスカッションしたことは、施設の在り方のビジョンなわけですがけれども、街の中でどうあったらいいよねということにも、もしかしたら波及するかもしれないという点で、絵の力は相当大きいと思うのです。あるいは建築学科で言えば模型を作るということは、相当武器になるということを経験したことを今日のディスカッションを通じて思いました。

これから、今日の冒頭の説明で、市民懇談会の参加人数であったりパブリックコメントの投稿者数であったり、あるいはワークショップの数はこれにもありましたけれども、正直個人的にはもっといろんな人に関わってもらいたいという反省があります。その時に、こういった楽しい装置を用意してあげるとか、そういう楽しい装置を使ってディスカッションをしたその風景がワクワクしていいという風景をきちんと伝えてあげるとか、そういうことをこれから継承していくことが、爆発的に増やすことではないけれども、徐々に徐々に、違う意味での関係人口が増えていくのではないかなというように期待できると思います。その辺りが委員会でのディスカッションというよりは、その外側でスタッフの方がいろいろご苦労されたその経験を次の今後の進め方に、つなげて欲しいと思いました。以上です。

土山委員

先ほど申し上げた部分に重なることもあるのですが、ご了承ください。やはり先ほどAIについては言及もありましたが、いろいろお伺いしながらこちらの再編方針をまとめることができたのは、ここでの議論があったからですし、先ほど讃岐副委員長もおっしゃいましたけれども、小金井市らしい、どこかの誰かに頼んで作ってもらうものとは質の違うものができたのではないかと思います。事務局の皆さん、委員長、副委員長、また委員の皆さまもお疲れ様でした。

これらを踏まえて、結局AIは過去に作られたもので、インターネット上にあるものをベースに物事を考えるので、意思決定や決断は任せてはいけないと思います。それらしい意思決定もしますが、やはり未来に対する不確実性があるので、責任が伴うことは任せて

はいけないということです。そういう意味では、こうした案を作る際にむやみに判断を任せず、意思決定を積み重ねてきたというところで、これからもそう積み重ねていくことが必要なのだと思います。

不確実性を伴うことに対しての意思決定というのは責任をもってやらなければなりませんし、その中で問題を共有し、その後の決断で大きな方向へ向くという意味で合意形成し、パブリックコメントにもあったように再編方針から今後どうしていくのかということが問われて、先ほど小西委員がおっしゃったように個別の施設についてはボトムアップ的な意思形成がなされていきます。施設がたくさんあるということと、一方でこの施設がなくなったら困るというミクロの考え方は、必ず差と分断が発生します。その声の差や分断をどう埋めていくか、その埋めていく過程にどれぐらいの人を巻き込めるかということが、讃岐副委員長がおっしゃったように、どのように未来に対する希望を持って意見交換ができるかということが重要になると思います。意見交換に関しては、パブリックコメントの中もファシリテーターというお話がありましたが、経験的に自治体職員の方にファシリテートが上手い方が多いかということ、必ずしもそういう組織ではないというところがあり、そこも行政が在るべきものを用意するというのはなかなか難しいということがあります。むしろ、使う市民の側の力量のようなことが最後に問われていくのだらうなと思いつつ、しかし、そういった施設のためにきちんとその在り方を考えて、声を上げてくれるユーザーにできるだけ多くつながるということが、現場では大事なのだらうというように感じているところです。

また、方針（案）の中の検討方法については、ステップ1から5というようにこれからこのような形で進んでいきますというフローがあります。公開することは難しいかと思いますが、庁内での意思決定をしていく中で、それぞれの施設がステップ1、2段階に入ったときに、この施設は今こういうことをやっていますというようなことを管理できるような、情報が集約されたページがあるといいなと思っています。今この施設はこういう段階です。そこから先がどのように展開していきますかということが可視化できるのでは

ないかと思っています。大きな施設を抱える庁内で、一元的なページを作ることはなかなか難しかったり、忘れられたり更新されなかったりはあるのですけれども、それこそA IやD Xの進展というところの中で、それぞれの施設が、今このステップのこのような動きをしていますよということが見えるようにできたら、具体的にこの大きな方針に沿ってどういうことが起きているのかということが分かるのではないかと思います。以上です。

梅根委員

まず、最近欠席も増えており大変申し訳ございません。今から申し上げることは欠席したときに発言しなかったというところで、少々戻ってしまうところもあろうかと思いますが、ご容赦いただきたいと思います。

私は生まれも育ちも小金井で、事業も小金井でやっております。この再編方針（案）について改めて拝見して、非常に魅力ある小金井でありながらも、やはり財政的には非常に厳しいということ、現実として突きつけられたところです。10億しか予算がないところに50億かかる更新をまともにやっていけないというところで、このような再編方針（案）を改めて策定しなければならないということ、これを改めて実感しているところです。

また、児童数をフィーチャーされてまとめてありますが、私の子どもは今小学6年生と4年生で、妻がPTA活動に勤しんでおります。児童数の増加で学校施設が足りないというような話を今は感じていたのですが、これからの状況を見ると、やはり日本の状況に合わせて児童数すら減っていくということが予想されています。マンション一つで、急に生徒数が10人、100人単位で増減するので、これが確実だということではないとは思いますが、そのような傾向にあるということ、これを踏まえ、方針（案）全体が学校施設に集約する方向に向けて作られているということが、よくも悪くも試練かなと感じます。方針（案）がこれから公開されて、実装に当たって余りにもその方向性が強すぎるというように見えなければいいなと感じたところです。逆に言えば、それはそれで方向性がはっきりしている方針（案）かなと感じております。

小金井市は非常に魅力ある市であり、不動産屋のデータでもたまに地価が高いとか安いとかではなく、例えば、災害が東京都の中で1番目か2番目かに少なく、これからも住んでいきたい市であるということは住んでいて感じますし、そのような情報を集めていっても感じているところです。

そのような意味で、方針（案）を実装する段階にあたって、魅力がきちんと反映されるようなポテンシャルが小金井市には確実にあります。小金井市の魅力を、その実装段階で組み込んでいければいいかなと思っています。

今回の方針（案）に関しては、あくまで施設の方向性を打ち出すという意味では意義があると感じております。

私は商工会からの出向ですが、残念ながら小金井市は基幹産業的なものがなく、小さい商工業者が一生懸命、目の前の仕事を頑張っていて、小金井市の魅力を打ち出すことができれば、商工会も盛り上がって、また、最初に申し上げた財政的な厳しさも、少しでも緩和されればいいなというように感じております。雑駁ではありますが、私からの感想となります。以上です。

中谷委員

社会福祉協議会の中谷です。この会では長い間いろいろ議論させていただき、楽しませていただきました。ありがとうございました。

資料1の回答をこれからするということですが、ここが一番大切なところになるように思っています。回答内容を見ていないので何とも言えないところですが、ここにどれだけ具体的に回答を返してあげるかということで、この方針を作ったメッセージが活かされるように思います。出身者としてはなかなか言いづらいですが、例えば参考にしたいとか、今後の何とかにしたいという話は極力やめていただき、しっかりと方針をメッセージ性の強いものとして回答を出すということをやっていただければと思います。

ですから、先ほど村井委員がおっしゃったような、ファシリテーターの話は、必要な施設においては絶対なくてはいけない機能だというのは、皆そうだと思っている。郷古課長が言っているとおり全部やれという話にはならないです。ただ、必要な施設には、ファシ

リテーターは絶対にいないと建物が活かないのではないかと個人的に思っているので、そういったものが必要な施設があるので、極力こういうようにしたいとかという具体的なお返しをしていただけるとありがたいなと思います。

もう1つ、最後の方に社会福祉協議会の2階という意見がありましたが、ユニバーサルデザインとか、今後どうするかということを示唆する答えなのですね。だから、今このままではいけないからこの人はこのようにおっしゃっているので、では現状の施設をどうするのですかというのが、今後の施設の在り方を示す、今できることを返す回答であると思うので、例えば市役所の本庁舎、議場が4階にあって、階段しかなくて、障がい者の方が来たときには、言い方が悪いのですが職員全員で運びます。ですから、建物自体がエレベーターをつくれなにかいろんな諸事情があるということは認識していますけど、例えば、そういったことを今やるのが将来の施設に対する小金井市のビジョンの示し方になると思うので、やはり今できることをやらないと、計画が絵に描いた餅と言われてしまうということに繋がるのだらうと思います。そのため、この回答のところですっきりと示していただくということを、ぜひご努力いただきたいということを申し上げさせていただきます。それが、我々がまとめたことなのではないかと思っているので、ぜひ最後のまとめをしっかりとやっていただきたいと思います。よろしくお願ひします。ありがとうございました。以上です。

村井委員

私は、小金井に縁があって兵庫県から15年前に来まして、長女は小学1年生、次女が幼稚園年中のときからずっとお世話になっています。最近下の子は私立高校に行ったのですが、小金井ってなんて良いのだらうと言っていました。小金井は平和だということで、他の学校についてはびっくりするような話もあるとのこと。

私も小学校の時にはPTAの活動など、今は青少年健全育成に入っているのですが、そういう意味ではソフト面のリソースというのは、ものすごくポテンシャルがあると思っていて、それは市の方々というよりも、ボランティアに携わっている方々のポテンシャルが

ものすごくあるので、そこは今後活用なされるといいのではないかと、いろいろお話を聞いていて思いました。

検討委員会の委員はこれで終了ですけれども、やはり市にやって欲しいのは縦割りからの脱却です。日本一風通しの良い役所になって欲しいということがあり、要はその成果物としてこのプランがきっちり動いて、しっかり市民にも賛同を得ながら、形になっていくというように、日本で一番スピード感を持ってやっているというように生まれ変わっていただけると、僕らもやってよかったと思えます。

申し上げたかったのは、これから公共施設等総合管理計画策定推進本部の腕の見せどころとあっていて、この方々がソフト面もハード面も、そして計画の実施、チェックをしっかりとやっていただいて、他の自治体がどのように小金井市は進められたのかというように、見学に来てもらえるぐらいの勢いでやってもらいたいという期待感があります。そうすると、もともとこのプランは予算が足りないという悲壮感から始まりましたが、それが少しの成功でも積み重ねると、どんどんわくわくしてきますし、市民からの賛同も得られ、実際携わっている方もわくわくして、もっとこうやっていこうよという自己肯定が湧いてきます。そのようなものを生み出していただければ、賛同が増え、協力者も増え、何となく箱で何ともならなかったことが、ソフト面などで解決できたりすることが出てくるのではないのかというように思いました。

まとめると、少しでもいいからスピード感を持って成果を出してそれこそAIなどを活用し、どうやったら縦割りからの脱却できるのかなど聞きながら参考にさせていただいて、既成概念を突破して進めていただけたらと思います。以上です。

小西委員

まず1つ、市民参加ということについて、懇談会を開催したものの3人しか集まらなかったというところで、これから市民に意見を聞きながら進めていくということ、どのようにやっていけばいいかということは大きな課題だと思うのですが、公共施設というのが何を指しているのかということが、もしかしたら市民にあまりイメ

ージが伝わっていないのかなと思いました。実はあれもこれも公共施設なのだとするところ、特に、学校などは保護者が関心のあることですし、本当は学校についても言っているということは、直接聞かないと分からないとか。そのため、なかなか市民一人ひとりに届いていなかったというところもあるのかと思っております、これから市民の方を集めて対話をしていくにあたっては、なるべくイメージとしていろいろな範囲に渡ってお話しする場だということが伝わるようにすると良いと思います。

あとは参加しやすい工夫として、以前、若者MIRAIトークという小金井市主催の若者が集まって、どのようなことをしたいかというディスカッションをするというものに参加したことがあります。それがかなり小金井市周辺の大学の方にもアプローチしていたようで、来てくださいとターゲットを絞ってアプローチする、そして色々な機会を設けるとするのが良いかと思っております。

また、若者MIRAIトークには参加報酬が若干ありましたが、参加者は報酬目当てだけでなく、それぞれ何かその場を楽しんで積極的に意見を出すというような空気もありましたので、ぜひそのような工夫をしていただけると良いのかと思っております。

あとは、先ほど村井委員もおっしゃっていた縦割りというような、それぞれの現場によって昔ながらのやり方が続いているなど、例えば何か利用申請をする際に、この内容であればフォームに入力して申請する形で良いのではというようなものでも、平日の9時から5時の間に窓口に出すしなければならないため、時間休を取らなければならないというような現場が小金井市の至るところにありまして、なかなか全庁的なDXとして利便性を追求する方向で動いていくことは難しいのだと、色々な現場を見ていると感ずるところです。ビジョンからは少し逸れますが、市民に使いやすいように、広く使われるように、今後もやっていただけたら嬉しいです。以上です。

鈴木委員

2年間議論を経まして本日、ここで一つのまとめができたかと思っております。ただ、報告書を作ることが目的ではなく、本当にこれからの実行ということが大切な部分になると思っております。この報

告書がこれからどのような形で進んでいくのかというのを、私はこれからも楽しみに見ていきたいと思っています。

絵に描いた餅という言葉が出てきたかと思いますが、本当にこのまま絵に描いた餅にしてしまうのか、それとも確かな未来像として、今後築いていくのかというのは、これからの市の取り組みによるところだと思っています。ただ、やっていく中では、当然難しいことは出てくるとしています。できなかったときに、そのできない言い訳をするのではなく、できることを前向きに1つずつクリアしていった欲しいということが市民としてのお願いでもあります。

市民は本当に小金井市の未来に期待しております。出来ること、出来ないことということがあるとは思いますが、市民の声を真摯に聞いていただき、この過程をしっかりしていれば市民からの信頼も築いていけると思います。

今回、この議論がひとつ終結しますが、持続可能で魅力ある公共施設ということが、今回の議論をもとに進んでいくということを願っております。そして今回議論において、事務局の皆さんが本当に素晴らしいと感じました。丁寧に説明していただき、しっかり我々の意見を聞いていただいた中で対応していただいたこと、敬意を表したいと思っています。ありがとうございました。

それから各委員さんにつきましては、大変勉強になりました。市古委員長、讃岐副委員長、土山委員、専門家の意見を聞かせていただきながら、そのような意見もあるのかと感じながら、大変私自身も成長させていただいたという思いもありましたので、本当に委員の皆さま、ありがとうございました。最後になりますが、弊社は、小金井市で創業来年50年を迎える会社です。市民の目線というのを大切にしている企業でもあり、市役所の皆さんとは立場は違いますが、共に小金井市を愛していくという立場では、違う立場で、また我々も市民に協力できることを頑張っ参りたいなと思っています。引き続き、良い小金井市にしていくよう頑張っ参りましよう。2年間ありがとうございました。

共施設の複合化を考えているという応募に対して、エネルギーの話をするだろうと思ってきましたところ、全く2年間で出てこなかったということは、自分の視野の狭さがあるなと思っています。それがなぜかという、今AI化が進んでいる中で、恐らく皆さんも触れているのかと思いますが、自動制御として全て機械に任せてしまえるものというのはものすごく少ないということです。やはり、人間が介入しないと暴走を起こしたりしないような部分での実用化しかできないということがありまして、その点、エネルギーは結構自動制御できる部類のものではあるとは思っていたので、それなら早めに任せてしまって、他のところに動いてもらった方がいいなと思っていたのですが、他に考えることがあったのだと2年間を通して思いました。

もう1点としましては、仕事としては箱を作るまでをやるのが主なのですが、XからYを作るプロジェクトをしたら、そのXからYの間に色々なトラブルがあったとしても、結局Yはなんだかんだ形になるものだと思っていました。しかし、この2年間だけでもXやYに関わる環境はすごく変化していく。そして市民の声もどんどん変わっていくとなると、そのYの揺らぎが凄まじいと感じました。Yは消えることもあるというか、泣く泣く消滅せざるをえなくなることもあるだろうし、ここが確固たるものではないから、今、方針で決めましたこのビジョンの解釈も、5年後にはもっと変わっていかねばならないのではないかと思います。今はこのような理解でビジョンができましたが、5年後には全く解釈が違ったものにしていき、それに対して公共施設の使い方もどんどん変わっていかねばいけません。そのため、方針を作ったから終わりではないと感じました。

これからの複合化というプロジェクトは、どんどん変わっていくとは思いますが、そのような意味で学びが沢山ありました。勘違いで委員会に参加したのにもかかわらず、事務局の方々をはじめ、検討委員会の方々に温かく意見を聞いて頂き、最後まで発言ができたことを感謝しております。ありがとうございました。

ご意見を聞かせていただいて、大きく分けて3点あります。

1点目は、この方針案の意義についてです。つながらない自由も許容するということが公共施設のビジョンではないかなどのビジョンの検討や、小金井市全体を中学校区と三つの拠点で分けて、公共施設や公共サービスに対するスケール感でニーズが異なるだろうということ、また、徒歩圏などのような話を含めて整理をしておいたので、今後は中学校区で検討するといった方向性にきちんとなっているのではないかと思います。実際にはパブリックコメントの意見にもあった、いい意味での小金井市らしい公共施設を考えるための大事な考え方の追加であるというような受け取り方もありなのではという気はしています。これが1点目です。

2点目は、そうはいつでも財政状況は待ってけませんので、スピード感を持ってということと、一方で小西委員からもご指摘がありました。市民参加をしていくと、対話コミュニケーションというのはどうしても時間はかかるということです。スピード感が求められることと、じっくり議論を尽くしてということとを両立していくことが、小金井らしい進め方になるのではないかと思います。

このスピード感と、きちんと討議を尽くしてというのは、僕の災害研究において一番大事なキーワードになっていて、それが一番論点となったのは、今から25年前の9.11のワールドトレードセンターの飛行機が突っ込んだ事故なのですが、その時に言われたのは、エクスペリエント アンド デリベレイティブということを目指そうということでした。エクスペリメントとは、可及的速やかに都心部を再生する、また超高層の事務所を建てるべきだという話と、あのビルだけで3,000人が亡くなっていますので、遺族の気持ちも慮って丁寧に、デリベレイティブに討議を尽くしてというこの両立が大事なのだということでした。それ以降も災害復興のスピードを重視しつつ、納得のいく被災者の参加をとということにも関連するかもしれないと思いました。関連するかもしれないというのは、小金井市らしい進め方が、特に財政面で、総量抑制が急務であったり、児童数の見込み減少ということもある中で、本当に手を打たなければいけないところは、可及的速やかにエクスペリメントにとい

うことです。一方で、丁寧に議論を積み重ねていって、何かいいアイデアが出て、そのアイデアがまた大事な実際の事業に結びつくといったスピード感と議論を尽くしてということを対立と考えずに、両立するものであり、バランスが取れるものだと述べさせたいです。

それから3点目は、村井委員のおっしゃった担い手・ファシリテーターみたいな話が、僕もとても大事だと思っているところです。実は能登半島地震の後の七尾市の矢田郷地区コミュニティセンターの調査を、直後のボランティア活動やいろいろな経緯もあって、よく遊びに行かせていただいているのですが、地方の公民館に行くと、特に新潟、富山、石川辺りが該当しますが、公民館活動と、地域の連合町会、もしくは地域のまちづくり協議会が一体的になっている。公民館の指定管理者が、町会や自治会を母体とするまちづくり協議会、地域協議会を担っていく。矢田郷はその典型的な例で、避難所についても大成功し、若い人たちがSNSなどを活用して、ニーズを発信し、トイレや水、果物も欲しいといったことをつぶやくと、ピンポイントで送ってくれるというようなものです。じっと我慢したら、市役所から物が来るかと思ったら来ないので、そういうことを始めたとおっしゃっていました。かつ、そういうことを始めると、物資が過剰に来てしまうので、彼らは七尾から奥能登への支援を始めました。それもやはり公民館らしい取り組みかと思えます。もしくは、七尾あたりまで、もともと輪島や穴水辺りご出身の方が七尾で今働いているという方もいたので、そういった自治体を越えた支援活動にも繋がっているということでした。かつ公民館という箱があったからこそ、倉庫にもなり、かつ和室があったのですが、その和室を高齢者か幼児のどちらに使っていただくかということも、短時間ですが、きちんと議論しており、結果的に乳幼児に使ってもらおうという判断を矢田郷ではされました。このように箱モノと公共施設とその担い手の関係性というのは、民間の企業とかNPOの力を、民間活力をうまく使ってという東京らしいやり方なのですが、やはり特に災害時など、お互い譲り合っという空気感を出すには、先ほど小西委員からもあったように、地域の方にきちん

と必要な報酬として、その従事スタッフの方には働いてもらうというように、そういったお金の流れ、働き口という辺りの論点も含めて、公共施設とその維持管理というところが、とても気になっています。もしくは、そこそ小金井らしいスタイル、施設管理の在り方というのが、導き出せるのではないかと思います。

最後、なぜこのようなこと言うのかというと、ちょうど4年ほど前に、小金井市の都市計画マスタープランのお手伝いをさせていただいたのですが、その時の公募委員の方の見識の高さに僕も毎回毎回学ばせていただきました。そこで思ったのは、小金井は、村井委員もおっしゃったように本当に住みやすい場所で、住みよいということについては、確かに吉祥寺や国分寺、立川には負ける。若い人から見るとそういうところが羨ましいと思うかもしれないのだけど、住んでみると、もしくは、賃貸の家賃も比較して安いし、安いけれども住んでいると非常に住みやすいという、いいところ取りをしているというような表現もしていて、なるほどなと思いました。その公募の方がおっしゃっていた小金井の居心地のよさ、住みやすさを選択している市民のメリットというのは大きいと思うこともありました。そういったお話をお聞きすることも踏まえると、小金井らしい公共施設の維持管理の在り方、単にユーザーとしてどのような機能がということに加えて、それを運営していくためにも、どんなことができるのかという論点を含めて、展開していただけることは可能なのではないかと思いますし、そういうことを含めて、ぜひ次へのバトンをつなげていただけるといいかなと思いました。ありがとうございました。

土山委員

先ほどお話があった施設のエネルギーの話ですが、私もずっと気にはなっています。施設の改廃を考えるときに附属的に必ず出てくると思うのですがけれども、脱炭素、脱化石燃料みたいなところは、昨今の情勢からも大きく運営にも関わるし、持続可能かどうかにも関わります。小金井市としてもさまざまな政策を展開しているところだと思うので、そうした部分の検討も入っていかなければいけないと思います。逆に太陽光発電を自家消費で使うということについて

ては、むしろ合理性も高まっているところでもありますので、そうした公益性に資する施設運用みたいなことは、どこかで意識されるべきだということを、ご意見を伺っての補足とさせていただきます。おそらく、そうした施設を運営するなら、より市内の意思としても、さらに補強していく必要があるかというように思いました。以上です。

村井委員

感謝を述べるのを忘れていまして、すみません。

委員長がしっかりと進行していただいて、言いたいことをしっかり言わせていただきました。この2年間ありがとうございました。

事務局の皆さんも資料作成に尽力するといった形で、皆さんに出会っていろいろご意見を伺えて、最後にやはり市古委員長がおっしゃったように賛同者を、市の思いに力を貸してくれる人を増やすことが、今後の他市と差別化といった、やっぱり小金井市いいよねということに繋がると思います。私が思っているのは、安全について、要は、何でボランティアしなきゃいけないのと町の方が言われた時に、あなたが街角に立ってセキュリティが充実しているということで、他の人はそこに住みたいとなったら、あなたの土地の価値が上がるかもしれないという、回りまわって結局自分のところに帰ってくるのではないですかという考え方です。だから、小金井に住みたい、ここで出ていってもまた子育てなどで小金井に戻ってきたいんだよと言われる。そのまちづくりというものの1つとして、今回のインフラ整備もあると思うのですが、やはり人的リソースが市の方を向いて、市と一緒にやっていくぞというようになっていくことが、他市との差別化になる。繰り返しになりましたが、委員長の話を聞いて確信めいたと思います。以上です。

小西委員

委員の皆様から「人」がやはり必要だよねというお話があったことを受けて、少々逆のことを言いたくなりました。

私が小金井市に対して思っていることは、子どもを遊ばせる場所が少ないということです。公園はいっぱいあるのですが、屋内で遊べるところが少ないということは再三お伝えしてきているところ

です。

別に子どもを見ていて欲しいとかではなく、ただ子どもが裸足で遊べる屋内や屋根があるところで、熱くもなく寒くもない環境で子どもを放てる場所みたいなものがあって欲しいと思います。今は便利なところにそういった場所がないものですから、民間企業のソコラの中にある遊び場に子供たちは結構集まっているわけです。それは別に市がやっていることではなく、また何かこういうものがあつたらいいと、民間企業がやってくださっているというもので、ただ場所があつて自由に使えるだけでもありがたいという場面や、人を介さずとも、無人の本を受け取れるロッカーがあるなどといったことは、受け取れるだけでとにかくありがたいという考え方もあるかと思っています。なので、ファシリテートしてくださる方がいないといけないから難しいよねという考えもあるとは思いますが、では、人がいなくてもできるようなものという考え方もあると思います。知らない人に話し掛けられてしまうと、驚いてしまう人もいると思いますので、人を介さずともサービスを受けられるようなものも、考えていただけるとありがたいと思っています。

市古委員長

委員の皆様、ご意見をありがとうございました。本日の意見を踏まえまして、事務局にてパブリックコメントの回答、その後、方針の策定を行うこととなります。事務局には各委員の意見や感想をお汲み取りいただき、方針の策定まで引き続き取り組んでいただければと思います。

では、次に議事のその他について、事務局より説明をお願いいたします。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長

それではその他としまして、方針策定のスケジュールについて説明させていただきます。改めまして、委員の皆さまにおかれましては、本検討委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございました。令和6年8月の第1回検討委員会から全9回の検討委員会を経まして、方針案がこうして形になってきましたのも、第1回から今回に至るまで、公共施設の現状や課題を

共有し、将来に向けた在り方や再編の方向性について、多角的な視点から皆さまの忌憚ないご意見をいただいたおかげとっております。

本検討委員会、市民ワークショップ、職員検討会を踏まえて検討を進めてきた本方針（案）ですが、本日いただきました意見も踏まえ事務局で検討しまして、3月下旬に方針として策定をする予定です。

方針策定後の令和8年度から我々の方で具体的な検討をさせていただければと思います。

最後になりますが、委員の皆さまのこれまでのご尽力に、改めて深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。以上です。

市古委員長

以上で、本日の議事はすべて終了でございます。これをもって閉会といたします。皆さん全9回の検討委員会のご出席、大変お疲れ様でした。

（11時30分閉会）